

話すということ

私にはいとこが二人います。長男は生まれたときから耳が聞こえにくく、手術をして補聴器をつけています。次女は健聴者です。二人の親も耳に障がいを持っているのを知っていたし、私が子どもの頃から関わっていました。なのでいとこが生まれてから今まであまり違和感を感じたことはありませんでした。でも次女の成長を見ていると、しゃべり出すのが早いなど感じたり、よく声を発するなど気づいたりはしていました。あるとき長男が次女にお茶を飲ませてあげている瞬間を目にしました。二人ともまだ幼く、年も少し離れているので一緒に遊ぶ姿はもちろん、隣に並んでいる姿を見ることも少ないです。言葉をかかわすことはなくても、しっかり二人の間には世界があって関わり合っているんだなと思い、心が温かくなりました。

長男が歩き始めてからは、いとこが親とコミュニケーションを取らなければいけない機会が増えました。危ない所に行くとき連れて来て！とジェスチャーで伝えられたり、親より私の方がいとこに近い場合は代わりに行動します。そのときにスマホを見ていたりすると、親のジェスチャーに気が付かないことがあります。子どもはすばしっこく危機一髪で気が付くこともありました。家には私の親や祖母など大人がたくさんいますが、それからは常に気を付けて周りに目を配るようになりました。

私の家族はほぼ全員が手話をするのができません。祖母は少しできますが、長く会話することは難しいです。そうなるとう筆談が多いのですが上手に言いたいことを表せません。表情で感情やテンション感はつかめませんが、やはり耳で聞くよりかは情報が少ないです。そしてだんだん深い話はせずに、あいさつやジェスチャー程度でしか会話をしなくなりました。いとこ二人を見ているとあまり暇なことはいないけれど、やっぱり会話したいと思うし、いとこが大きくなったときにも話したいと思っています。

ところで“話す”という単語は声に出して会話することだけを指すでしょうか。私は声に出さなくてもいとこの表情で何を感じているかだいたいわかります。おかしを食べたいときはうでをひっぱられるのでわかります。私は表情であったり、ジェスチャーも心で話してると思っています。将来的には手話をできるようにになりたいですが、それまでは心の会話をしていきます。

私はいとこの事を障がい者だと思ったことはありません。身近にいるからそう感じるのかもしれませんが、私たちは心で会話をするのが日常です。障がいを持っているからと言って差別される必要はありません。みんながそれぞれ自分の人生を生きたらいいと思うし、他人に侵害されてはいけなからです。私も今までは耳が聞こえないと会話できないんだろうな、生活も大変だろうなと思っていました。でも実際に関わっていると全くそんなことはないと感じかれます。いとこ二人、親子、いとこと私達は心ではつながっているのです。いとこと出会ってから私はどんな人も偏見なく関わるようにしています。決めつけないことを忘れず、これから関わっていきたいです。いとこ二人が仲良く成長していくことを願っ

ています。